

タイ・カンボジア国境紛争 カンボジア国内避難民

被害状況／課題

大規模な軍事衝突により約46万人が避難

タイ・カンボジア国境では、一部地域の領有権をめぐる2025年5月から緊張が高まり、7月には本格的な軍事衝突に発展しました。12月初旬には、カンボジア北部の国境地帯で大規模な戦闘が起き、国家災害管理委員会は、タイ・カンボジア国境沿いで約46万人が避難していると発表しました（12月18日時点）。

AARは、30年以上活動が続けてきたカンボジア側で、国内避難民への緊急支援の実施を決め、現地調査と支援物資の配付を開始しました。避難所は過密状態にあり、水や食料の不足に加え、避難所に入り切れない避難者への支援も必要な状況でした。マットや蚊帳も不足しており、衛生面・健康面での懸念も高まっていました。

AARの取り組みと成果

緊急支援物資の配付

①12月18日～20日にかけて、コッコン州、バットアンバン州、ポーサット州の3カ所の避難所を訪問しました。聞き取り調査をしながら、飲料水や米、油など、当面の生活に欠かせない物資を配付しました。

②12月25日～27日にかけて、初回調査で特に支援の必要性が高いと確認されたコッコン州およびポーサット州の避難所にテントや食料、衛生用品を届けるとともに、長引く避難生活の中で多くの子どもたちが学校に通えていない状況を受け、ノートやペン、塗り絵などの学用品も配付しました。これらの支援により、計470世帯（約1,900人）の生活環境の改善につながりました。

配付した支援物資

- ・食料品（ソーセージ、米、ビスケット、魚缶詰、牛乳）、調味料（魚醤、醤油）
- ・衛生用品（生理用品、歯ブラシ、歯磨き粉、シャンプー、蚊取り線香）
- ・テント、生活用品（寝具マット、毛布、蚊帳）
- ・学用品（ノート、ペン、鉛筆、塗り絵帳、絵本、色鉛筆）

学習支援

12月27日、タイ・カンボジア両国の国防相が会談し、即時停戦に合意しました。しかし、治安や住環境の問題から帰還が困難な世帯も多く、そうした家庭の子どもたちは学習機会を奪われたままとなっています。

AARは、2026年2月より、ポーサット州の避難所において、公立学校教員3名による臨時学級を開き、小学校1～6年生22人の学びを支えています。

「避難が長期化し、避難所で生活している子どもたちの教育が心配です。近隣の小学校や教育行政に情報を共有し、子どもたちを支える仲間を増やしていきたい」と話す臨時学級のバンダ先生（左）とAARブノンペン事務所職員＝ポーサット州で3月30日



バットアンバン州避難所の様子＝2025年12月19日



避難所に支援物資をお届け。中央はカンボジア駐在員の大室和也＝コッコン州で12月18日



「村から5キロほどの所で大きな爆発があり、家族5人と親戚でトゥクトゥク（三輪タクシー）に相乗りして2時間かけて避難して来ました。テントがなく床にマット1枚を敷いて寝ています」と話すドン・ソーンさん（32歳）とカンボジア駐在員の荒井大地＝ポーサット州で2025年12月20日

